

## 正誤表

書名 : R によるベイズ統計分析 (照井伸彦) 初版第 1 刷

頁 : 10、下から 8 行目

誤 : となり、 $I(\pi)$  は

正 : となり、 $I(\pi)$  は、ます

頁 : 10、下から 6 行目

誤 : と求められる.

正 : と求められ、

頁 : 31、下から 3 行目

誤 :  $p(Y | \mu, \sigma^2) =$

正 :  $p(\textcolor{red}{y} | \mu, \sigma^2) =$

頁 : 74、9 行目

誤 : パラメータの前領域

正 : パラメータの全領域

頁 : 79、10 行目

誤 :  $= \bar{D}(\theta_k) + p_k$  (6.26)

正 : これを削除して式番号(6.26)を 1 行上へ移動

頁 : 79、下から 5 行目

誤 :  $D(\bar{\theta}_k) = \frac{1}{N} \sum_{j=1}^N (-2 \log p(y | \bar{\theta}_k))$

正 :  $D(\bar{\theta}_k) = -2 \log p(y | \bar{\theta}_k)$

頁 : 79、下から 3 行目

誤 : AIC との対応では

正 : AIC との対比では

頁 : 80、上から 2-6 行目を下記に修正

正 : が得られる. ここで  $\chi^2_{p_k}$  は自由度  $p_k$  のカイ 2 乗分布に従う確率変数であり、また

$L = \log p(y | \theta_k), L_{\bar{\theta}_k}' = 0$  を利用している.  $E(\chi^2_{p_k}) = p_k$  となることから、上式の両辺の期待値をとると

$$E[D(\theta_k)] = D(\bar{\theta}_k) + p_k \quad (6.31)$$

となり、左辺の推定値として  $\bar{D}(\theta_k)$  を利用して有効パラメータ数(6.28)式との対応関係が得られる。

頁 : 116、16 行目

誤 :  $+\varepsilon_t$  (9.7)

正 :  $+\textcolor{red}{v}_t$  (9.7)